

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第14号
2018年9月20日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

満蒙開拓記念館の見学ツアーに参加して

禿 あつ子 (祖父江)

「望郷の鐘」の上映会に参加しただけで、このツアーに同行してもいいのかなという思いもありましたが、満州開拓団やシベリア抑留について知りたいと思い、参加させていただきました。

8月23日(木)は、あいにく台風20号が、今夜にも東海地方を通過するという天気でしたが、各サービスエリアでも、ほとんど降らず、昼食場所までの馬籠の下り坂の10分程の散歩道の間も、大丈夫でした。昼食は、全員揃ってから茹でる名物の蕎麦を中心に、特産の野菜のてんぷら等、おなか一杯になりました。



満蒙開拓平和記念館 (駐車場より)

その後一路、満蒙開拓記念館に向かうバスの中で、自己紹介をという事で、皆様のこの見学ツアーにかける思いを聞くことができました。参加メンバーは私と同年配かそれ以上の方で、まだまだ戦争の悲惨さを身近に感じることができ、身内の方の話もされました。そうこうするうちに、山の中にあるのではないかと想像していた記念館が、案外町に近い所にありました。記念館の説明は、広島出身の女性の方でした。満州の開拓団に何故多くの人々が、参加してしまったのか、色々な面から話して下さいました。

1. 世界恐慌が昭和の初めに始まり、養蚕業で現金収入を得ていた農家は、非常に貧しくなっていたこと。
2. “20町歩の地主になれる”と、新天地を求めたこと。
3. 郷土のため、お国のためであると信じたこと。 →2 ページへ



馬籠の宿の旧街道



烏江地内

♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

また、長野県が何故一番多いのか、1から3の理由に加えて、海外移民事業に積極的な県民性の土壌があったので、突出して多く、次に多い山形県の2倍よりまだ多いのです。さらに驚いたことは、満州の地図に、開拓団の入植を表す“赤い点”の多い事と、“ソ連国境に近いこと”。14、15歳の子が義勇隊開拓団として、一番ソ連に近い所に行かされたこと。これが本当の国策（人間の壁で戦う）でないかと思いました。

その後の展示室は、それぞれの記憶として、静かに証言を綴った文章が置かれていました。また、次の部屋は、私達にできることという、「平和な未来へ」のコーナーがありました。

残念ながら今回は、台風が近づいていることもあり、少々後の方は、早く回ってしまったと思います。その分、帰りのバスの中で、もう一度「望郷の鐘」を観たいということとなり、上映してもらいました。阿智村の人々が、昭和20年5月に入植したこと。その後の逃避行の苦労を思うとき、腹立たしさが前よりも激しくなりました。映画のなかで、命からがら帰ってきた子供が、慈昭さんに「俺たちは、騙されていたんだ。」と泣きながら怒って言うのに対して、「騙されるほうにも、責任があるんだ。」と言われるところや、それでも、家族や開拓団の人々が、ほとんど帰ることができなかったことを知った後、激しく泣かれてしまうところが、胸に残っています。後半は、まだまだありますが、バスは養老町に着きました。

家に着いてから、記念誌を読むと、国策に反対した村長さんがみえたと書かれていました。

昭和13年に約3週間視察旅行をして、開拓団の実態から移民政策に疑問を持ち、分村移民を出さない方針をとられたとのこと。しっかりあの時代にも、自分の目で見て判断された人達もあったんだと安心しました。しかし、あの時代だったからこそ、他の所に知らせることもできず、27万人の人々を入植させてしまったのではないかと思います。

また、“未来に向かって”の問いかけの中で、“あの時代に生きていたらどうしますか”という所がありますが、私は、きっと村の人々に熱心に勧められていたら、断われずに、開拓団に参加していただろうと思います。《だからこそ、今はあの時代とは違うので、きちんと調べて、自分の頭で考えて、解らないときは他の人に聞き、解ったことは知らせないといけないのでないか》と、つくづく思い知らされたツアーでした。



館内に再現された開拓団住居の一部



初代館長
河原進氏による
碑



昼食をとった「まごめや」駐車場にて

8月9～12日「『明治150年』を考える集い」に参加して

今年は1868年の「明治維新」から150年になります。政府サイドの「明治150年記念事業」キャンペーンを負の側面も含めて見つめ直すという企画展が、8月9日～12日に岐阜で開催されました。これに参加した世話人からの報告を掲載します。



8月9日『戦争と平和150年展』記念講演 「戦後日本の光と影～ベトナム戦争から考える」

講師：中村悟郎氏(フォトジャーナリスト・元岐阜大学教授) 講演会(要約)

ベトナム戦争で米軍が行なった枯葉剤作戦は、1961年から10年間続き、南ベトナムの熱帯雨林の大半が消失されました。目的は解放軍の根拠地を破壊し、解放軍の食糧を断つことでありました。その結果、400万人余りの解放軍の兵と住民が枯葉剤を浴びたのです。ダイオキシン混入の枯葉剤は毒性と発がん性、催奇性を具えており、ベトナムのドクちゃんやクちゃんですが、四肢欠損、無眼球などの障害者数は現在も20万人といわれています。

実はこの枯葉剤は、戦時中に米陸軍BC兵器研究所で開発されており、8月を過ぎても日本が降伏しないなら、日本本土の穀倉地帯に使用する計画があったのです。しかし二度の原爆投下で終戦となったので、枯葉剤は使用されませんでした。

また、ベトナム戦争中は、沖縄の米軍基地が出撃拠点でありました。よって、B52の出撃だけでなく、枯葉剤や毒ガスが沖縄に持ち込まれました。2013年には嘉手納基地返還跡地のサッカー場からドラム缶が発見され、枯葉剤が検出されました。県民の健康被害が懸念されました。

まだ、知らされていない恐ろしい事実を語っていただきましたが、紙面が足りず、以上の報告とさせていただきます。戦争は様々な被害をもたらすことを知らされました。

(世話人 佐竹 哲)

8月10日「『黒川開拓団の悲劇』証言インタビュー」から

二日目の企画「『黒川開拓団の悲劇』証言インタビュー」に参加してきました。

2017/08/05 NHK、Eテレで放送されたE TV特集「告白～満蒙開拓団の女たち～」で一躍全国ネットの話題となった黒川(現白川町)開拓団で、ソ連兵の「接待係」を強いられた女性を招いてのインタビューでした。

郡上のひるがの在住で「接待係」をしたというSさん(93歳)に女性記者がインタビューをして、更に当時10だった安江菊美さん(マイクを持つ女性：写真)が補助の解説をする形で進められました。

Sさんは高齢であるため、受け答えにおぼつかないところもありましたが、開拓団の幹部から「奥さんには頼めんけど、あんたら娘さんには、身体を張って犠牲になってくれ。」と頼まれたことを、何回も繰り返し言うておられました。集団自決か性の接待か、他の選択肢は無かったのか?あまりに重く、痛い体験談でした。

(世話人 問山 尚義)



8/10 インタビューの様子

◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★10月8日(月)午後2時半、映画「それでも夢はある HOPE」上映会
 場所：情報工房5Fホール
 主催：ぎふコラボ西濃法律事務所・同友の会

★10月22日(月)午後1時半、「彰元さんの集い」
 場所：垂井町岩手 明泉寺
 主催：大垣別院 → チラシあり



「戦争は罪悪である」
 竹中彰元(しょうげん)師

★11月3日(土)午後1時半、「喫茶 ピース・ガード」(1回目)
 場所：養老中央公民館 2F 第4会議室
 主催：9条の会・養老 → チラシあり

★11月10日(土)午後1時半、「2018ぎふ平和のつどい」
 場所：岐阜市民会館大ホール/参加費：¥800
 主催：岐阜九条の会 → チラシあり
 内容：記念講演「9条を守るのは誰か?～問われているのは私たち」
 講演者：青井美帆 学習院大学教授(憲法学)



青井教授

編集後記

バスツアーを終えて

去る8月23日に「満蒙開拓平和記念館」見学ツアーを実施したところ、会員外も含めて18名の方の参加があり、観光も含めて何とか日帰りバス旅行らしい形になったように思います。尚参加者の方には記念写真をお届けする予定です。

前回5月は個人的な訪問ゆえに、ただ見て回るだけでしたが、今回はスタッフの方のまとまった説明が付いて、新しい発見もありました。特に満州移民政策の大元のすじがきを書いたのが政府ではなくて、関東軍だったことは、その後の調べごとの中でも裏付けることが出来ました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

その後のカンパの報告

引き続きカンパが寄せられ、9月13日までに、更に5名の方から¥11,500の新たなカンパが寄せられ、今年2月の総会以来、総額は合計 93,500円になりました。 問山 尚義(世話人)

8/23 バスツアー会計報告

収入			支出		
項目	金額	適用	項目	金額	適用
参加費	¥135,000	¥7,500x18	旅費	¥132,920	MS観光
			入館料	¥8,000	¥400x20(団体)
			お菓子	¥3,672	イオン・ビッグ
合計	¥135,000		合計	¥144,592	

差額△¥9,592は会の会計より補填します。



「まごめや」での昼食
 岩魚の塩焼き付き!



「満蒙開拓平和記念館」駐車場にて

連絡先

「9条の会・養老」世話人
 090-9183-0444 中野一美(代表)
 090-9894-0444 佐竹 哲
 090-2348-0719 問山尚義
 090-8733-0090 禿 憲正
 fax(問山)
 0584-71-8746
 E-mail(問山)
 toiyama@ninus.ocn.ne.jp